

二酸化炭素で プラ原料製造

富大、実用化へ共同研究

国補助事業採択

富山大が、国内の企業と共同研究している二酸化炭素を資源として再利用する

カーボンリサイクルの実用化に向けた研究が経済産業省の補助事業に採択され



技術について紹介する榎範立教授＝富山市五福の富山大で

た。資源化が実現すれば二酸化炭素の削減につながり、地球温暖化などの環境

問題の対策となる。選ばれた研究は、二酸化炭素からプラスチックの原料になるパラキシレン（PX）を量産する技術。富山大工学部の榎範立教授は日本製鉄（東京）との研究で二酸化炭素からPXを製造させることに成功しており、二〇一八年に特許を取

得した。今後の研究では、経産省の補助を受けながら、二三年度までに国内の五企業と共同で、製造工程の効率化や大量生産に向けた研究に取り組んでいく。

同大によると、全世界でのPXの需要は年間四千九百万トほどで、増加傾向が続いている。量産化の技術が確立した場合には、海外に同技術を輸出することも想定しており、世界各地で温暖化の防止につながることも期待されるとい

う。富山大はこの日、同大五福キャンパスで記者会見し、榎教授が事業を説明した。齋藤滋学長は「火力発電所が輸出され、こうした技術の輸出も進めば温暖化防止にも期待でき、本當の意味で国際貢献になる。二酸化炭素の削減につながるよう、地球規模で広まっていきたい」と語った。

（向川原悠吾）